渋川書
3869
ち

門人制 9
3869
巻 5

大正七年壱月寄
室井平蔵氏贈

打句庫

呉綾扇

至席撰

巻首

絶〻ぬ若と見つて居るとゞ尋ね可好
コツ〳〵炉次の声ギイ〻拍子天口
只人も亂さいふ尺如旅先者茄子
濃〻ぬ恋恋路之色熟ハ出カバ天口
たゞ〻ぬ一他人〻所朝之塩寸口
おゝよ入り利根ぢやいるぬ影鞠者花月
旅のうち廊り一下掴み乾る志友

たづがね発の卦一ツ家がゆき生　天口
所乾さハ片仮名よりかなを潜　可好
気の初まて潜竜勿用知る潜て生義　仝
晴日ハ彩日にある勤ハ　天口
問ハまくらしい処て月代　たと
参り辺ま咲きしまの花　志石
元さんゞに為くと出羅が雲　一東
羅きの変化猫を父も為ん乳　一入
殿拵下ゞ系あで為る　可好
紋の丸除ケても下り聖ホ祭り　仝
猫ごゝ捨り出ま玉を為　三乐

法然ハ法ひまあれ呂ぬけて　椿吐
砂うゝ叫ゝされいふ挟ゝ　天口
変ま寺の性命を部ゝ　志石
月が出ゝ迷ひ乃ゝ別業　仝
立てかり唯我独り当ゝと　天口
髪かゝち彩を紙れ混ゝ　石二
拵冊敢うゝ黄ハの蛾ハ老ゝ　寸口
がいるゝ溜る彩よ福ゝ相ゝ　志石
文の面を誠の元ケを志津が嶽　たと
らゝい彩ゝ延紙のくふ紙　雲椿
京田舎猪鹿る人と老人と　三乐

ゆふそ尾も苅〳〵ちろりてさそ尾　為舟
笠と業師　下　帯とちよ　天口
先を低〳〵節きしまれ　一入
加賀笠れかく帯のふそ尾　秋　三乐
ムらごりへ無　必きしもあり　秋月
ちひの郎武西て人ムりと　眠子
阿キンゆ西〳〵縄テまれまころ引　三矢
夢ガリ〳〵捨ぬ徒又突ぬ　陰　志石
蓋でたごでび咲ぞ屋ガふく　天口
おどけ交りよ名人の打キハ利　可好
姫もつく真さりを宸ヒ　名二

家内もんぞろ付ける麦移　可好
影おぬ者ガ　さ掛人　志石
上下モ拘ぞ芝居て居る　木〻
鶏ケてそいけ出銀子れ　三乐
能ひた茶ぶ娘〳〵て就て技持　可好
羽たく　さを〳〵く迄入大雪　一入
毛毬も雅風呂も蔵　後の月　雲橋
横よ帯安理ハ竹メ岳ぬ男　飡　仝
五十年　嘉モガ刷〳〵候の皮　天口
他人カ〳〵〳〵冷ヒる軍九　志石

巻軸

東明庵

蘭隠黛撰

巻首

腐句〻他人めよ蕉の橋の上　可好

面白ひりのとろ〻蕉て紅をまぐ　仝

大庵に法能さ世る猫ぬまる　仝

對〻よ庵〻身キ對よ年後　志石

嶺よ淋かませけん〻刀祝治　雲橋

四ツ屋の島子魂立て去数　天口

小とろ川むさらんと伝向　仝

来〻安〻ま〻の小銭乃ま〻らべけん　可好

名と問へば吸ういとお桃　雲橋

数の呂中にあるる履らが〻　三水

考り れ有 名 る 蛭 入　必月

必すめぐ年シ伝ぢく　志石

奥立れ鶏不使がるを日　仝

思ーいりの掛乞れ二皮眼　仝

ろひりのく剱伝ふ皇　仝

芳ボウ〻つる鎗又搖数鎗　仝

法のが西り伝父ら淋かむ　天口

ろひろけれろひ門投よ蛍　桃九

おしむべし 候時の冷うつきの髪 可好
丹後云産ゑ久し 鰤 号レ 天口
形くれ悩元寄之の若ゑ之 一入
張をハせし 歌も実家 志皮
元一 銭 名葉 荷のかひ女房 打 の好
叶ゆくれ新源しても 志石
張を合ゑを掛て 変ゑ 李ゑ
覓 チヨヒ 〳〵 蟹 ガ 床 広ふ う好
抱つゝゑ人 八の 丸 志石
丈の葉を 鶏 ぐ竹上 巣 仝
学問 名ひ 張を掛て 張る 橋吐

鶏 おし 車 既 大坊めふ 一入
義仲 ゑ向ゑ 付 女 天口
悩ゑ ゑ ふ ふ 答 一入
面 ゑ 巣 毛 れ 逆 母 の 祝 三矣
棒 端 ゑ 腮 春 を 人 て 張 る 志石
曰 と 持 た ゑ 人 の 初 も 三乐
覓 悟 さ ゑ め て 死 ぬ 仁 中 三矣
ゑ ゑ 使 者 既 く 几 帳 ゑ 橋吐
少 と 出 ゑ ゑ 矣 れ か な 絡 天口
つ ゑ 嘶 し の 自 体 ぬ ぐ ま く
分 桜 玉 味 唔 れ 書 ぶ 巣 ゑ 寄 可好

鳥カラ 敷世へ かいつぶり 仝

大男 敷び 居セで 舞鶴 仝

業北 命を 云伝も 見ー 落舟

魂を 敏ム 日 くを 新を 天口

がいると 源ニ る 顔に 福相 志乙

お迄入を 帰りに 寄口も 有るの 天口

木を 行を 強カを 浅合ツイ 十月 可好

お方 様チ 高 命を 見て 何と 見 仝

仮ハ 不て 北 ま やむ ー の 仝

折 ゆ る 浅合 父 母 情 橋吐

巻軸

五東庵

雲 云 和撰

巻首

元 に 極ハ せ 笑 を 見る 祝 李卿

活 様 を 乃 光 北 影 く 渉 ち ぶ き 可好

必 と 出 る る 多 の 仮 ま ぶ り 天口

赤 を 白 の 日 り 理 庵 と る る く 三矢

元 ハ 品 く 接 ナ 荒 平 男 を 多 の好

蛙 の 顔 い 可 乾 さ の 砂 巡月

赤 を 安 く き の ま と 為 き ら ば け ん 可好

無人記　かなつひ問ふ　菜翠
かんをはさ彫くなの脈　一八
御の家紋如くなの家と折つ　天口
巻物を高らして去ぬ　志友
花枯く居る方ツる　偶る　志石
吉日北陽を毋北拙　拙九
いひ月けの家内役ま　仝
仁のぞ竹さを毋の八陣　たと
面白さ為方北耳く　巻の絵　可好
夜目を自分ふよもホイ　如月
決戦問ふ　引者の骨　寸口

注のが返る　紙父も清かむ　天口
奥く寄り風がつめ　寸口
あちかれ礼もぷり　厠毛　天口
鍵と問くバ脱ういて　お穂　雲橋
鍵文を知ること　秋の歌　為舟
実話と紙博の実よ　余り　の好
につこう為ふ始末　仕く書　志乙
合人う添ムと知ぐ　濃り　為舟
ろひ出ー　紙博　の居ま　同ウ　可好
庫裏うこん紙金泥北　姫　三乐
旅うう寄り一つ　考る　志友

只人のたまゝ八ツ頃ぬ後九去　茄右
いさんでとゝ〜る　嶮しさの筆　吐月
嶮よ淋かに世ケ〜く刀能右　雲橋
嶮う森入るゝ萩の戸乃弓　可好
苦ゝ〜う明るぬく彩町　雲橋
仙の城かゝ寄る奥白がソレ　扒翁
孝行乃育紙者る　嶮八　花月
紙冊明て乃る子細花風　千滴
本言の塚も筆北屏よ向　天口
詩仏月夜根ぬ〜る迎さ　一入
拾て底北追長ひ月ど飯　可好
乃ゝ〜臨丸も乃ゝ〜ぬ口おりし　雨篁
たゞん寄きまり立ツのあぬの　天口
奪と富士とに歌されてゐる　志石
孝行もかゝて押北風とけ　杜と
庵乃ぬ流き猫りの日が去　天口
嶮の蓋アキ被り父子ゝ寄る　志石
ゝしの詩りよかゝを迎て夜　冬月
近年の嶮未戸が張りさく　天口
明て有亮ゝ能ぬハテ西義　杜と
折〜八理を紙よ夜て義遠る　天口
孝柚

白髮葦

萩風撰

巻首

[illegible]紀母の[illegible]　可好

[illegible]　秋月

[illegible]て[illegible]減り　可好

[illegible]れ[illegible]乳　仝

[illegible]　雲橋

[illegible]る[illegible]女の[illegible]　風序

[illegible]て七[illegible]　志石

抱[illegible]て[illegible]ら雛のさぬ　天口

無の交り[illegible]如[illegible]　三示

近[illegible]の[illegible]　志石

[illegible]の[illegible]の張[illegible]　志女

[illegible]　志石

蓮の実、母の[illegible]　仝

久男[illegible]び[illegible]　可好

這入[illegible]萩[illegible]　吉橋

[illegible]仲小[illegible]　天口

伏[illegible]他人め[illegible]橋の上　可好

[illegible]橋八[illegible]の[illegible]　仝

搦が掛って面白ぶらぶらない　一入
蝶一さ、ぜ行くを一ら砲一さ　西林
彩〳〵咲つて高馬いくさ　公月
笑ハ〳〵さたゝぬ水の奪ひさ　志石
鉄砲ゝ遠ゝ、運の拝領　石二
鍵文ゝて知ゝ秋ゝ夜　為舟
溜公も揉ゝも曲輪の伏ゝ捕　天口
気を使ゝ動ゝやゝ笑ゝ尾　一入
抱ゝの我抱ゝ気ゝ抱ゝ取　雲橋
桃原佐、木敢懸を云ゝ　可好
歌や色姫て内に仲の石　仝

潜る　隠る　言ゝ　可定
面白さ　あゝ　年ゝ　言の待　可好
月の入ゝ　邪ゝ　広ゝ　洗ゝ　雲橋
彩ウ　ハ　ル　ゝ　囲ゝ　ゝ　の　勢　眠子
気の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　可好
仲人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　一入
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　志石
仁の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
戻り　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　天口
祇園　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仝
毋の油　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　志石

俳の字我が心を不忘也　天口

春の暮炉辺の風もあ[illegible]　宗翠

神代より強る[illegible]　可好

女うら思葉[illegible]て[illegible]と付る　志石

かくてテレ〳〵筆に蛛さ　可好

ツイ風が消〳〵でハ[illegible]の灯　仝

大坂よりてハやさ〳〵ひ蕎麦の高　志石

長〳〵夜我律調る　可好

清水紙の象紙てカリる者っ遠ハ　天口

鶏ひれ[illegible]に撓る　紙[illegible]　孫　呂石

寄軸

一向齋用

只管撰

巻之

春雨も長〳〵押乃風を交　杜と

降〳〵ハ他りのぜ[illegible]　苏石

面白ひ[illegible]　可好

仮名手本忠臣蔵　志石

[illegible]巾[illegible]　二矢

[illegible]人[illegible]　可好

通ひ[illegible]　志友

濁ムも撞き曲輪の代さ捕　芙口
断さ、絶えて云へく云の山　木と
吉日れ濁近毋乃拍子　桃丸
源京に拍子かれるひ人　可愛
淀うさ姫も牛と返撥　雲橋
仲人さ為と子原さろ一入
晩日さ彩日にあ勤め　天口
加戸と祭城中ろ毋　仝
宮桜面侍れ雪が鼻子等　可好
太鼓ゑ笛を赤い剣がる　仝
芙仲ユ向ろ付さ如く　天口

嘶ろ蕨人と萩の天乃馬　可好
太運ど蕨を石女つくく　天口
長月八月内泡さふのぬく　可好
四蒐かして追手を家敷　天口
弦され乃ろ家城歩く　可好
橋を返る羽織元さ袋　呂石
元ろ拍子彩日ろ丈の状　天口
かくろ酒る都ろ福相　志石
二代めが西寺くりぶ　橋吐
謡で少く彩の一声　秋月
法会へ行る一節だげ迄　眠子

云りれてハ居ぬ麺さく嶋　鳥舟
徳家係虚ホーて実ゝぎゝ町　天口
股の云わど　ハ卦ゝ今ふ　花月
ゝゝあ我拭て宮さと面ゝ蓄　三乐
猫さも他人の耳ゝ入　机翁
偽ゝ奇偽ゝもちハ身の仮住居　芋宮
顔ぐゝの云ふ広川の関　たと
元を低ふ勒ゝと手の寝ゝ居　一入
乃の孝嘆田れ伝毋の片仮　可好
月ゝ七日ハ鶯もてこ祝ぐ　天口
ゝゝ光れ与ゝる家猪　志乙

云ふの八意ふ襦の伝毋　素梅
耐かゝゝ畑ゝ嘉ゝ鞍ゝ　天口
平風ぐ消ゝゝゝ云ひ婚新　可好
鄭公の行刻て来て拭ぐ減り　仝
仙ゝの乃理ゝ月力で八ゝ　志乙
家信ゝ修鎌ゝ実ゝ子ゝ　のぬ
鍋ゝ　一牧　女しゝり　天口
旅のゝ商ゝ一撫ゝ　考ゝる　志友
詠人ゝゝ梅かゝ知ゝゝ大男　れと
文の意く諫の居ゝ家の乳　仝
考軸

糧々菴

巴丈撰

ツイ風ガ清くさでハあれど煙軒　可好

たまご殘捻ミ繁ツてハ居ぬ　仝

猛雲さしぬもの方の運　仝

云られてゝ長ぬ所ハ鹿　雲橋

鹿ハ入りの撫ル丸二皮脇　志石

固ク巻れ丸ゝ多ル紀　仝

支の為ゝまハ月も立ぬス　秋月

固脇八月四巻ハふのぬく　可好

何の巻もあゝ踊ル玉姫　一入

笑ゝ笑ゝ笑ゝ歌ル丸ル味　未々

乃の声巻四拍無の作仮　可好

人ゝの宝山ニ月ゝ丸　仝

二月ゝよゝて姑メて鹿　雲橋

二条の后　彩町ぐ巻ゝ　為舟

池ゝ多ル住ゝくのゆゝ雲丸　芦雪

彼ゝゝ欲ル日ハ丸多丸ハ蒙　この好

覓チョビゝく解ガ家ゝ　仝

丸丸ゝ丸ゝ丸ゝ丸の絵　仝

巻行の肩 [illegible] 巻入 [illegible]月
[illegible] 雲橋
中絶遠ひよりこと限る [illegible] 可好
[illegible] 仝
[illegible] 天口
吉日 [illegible] 可好
いろ〳〵よ [illegible] 仝
[illegible] 秋之
[illegible] 梅吐
こゝ〳〵もケン〳〵も [illegible] 天口
どんと [illegible] 拙九

[illegible] 志友
[illegible] 可好
[illegible] 志石
[illegible] 天口
[illegible] 可定
[illegible] 可好
[illegible] 仝
[illegible] 為毋
[illegible] この好
[illegible] 志石
[illegible] 可好

[illegible]て大地を[illegible]ける 志乙
羽[illegible]てさをして遠へる大雪 一入
教代く[illegible]紅葉を[illegible]て[illegible]く 天口
片蔭[illegible]る風の涼しさ 一入
[illegible]人を語とたづ[illegible]り 爲舟
上下乃角も和光[illegible]神の[illegible] 天口
[illegible]れ[illegible]を[illegible]を[illegible]る 花月
[illegible]が[illegible]が[illegible]が[illegible]が[illegible] 可好
他人[illegible]る[illegible] 志石
大名に抱[illegible]夜光の玉[illegible]の[illegible] 可好
巻軸

彫畫館

玉東擬

壹巻

古用千中[illegible]富士山 茄石
加賀笠の抱く帯の[illegible] 三乐
臭木が咲り毎ハ遠[illegible] 二の好
紅[illegible]が[illegible]く陳子[illegible] 秋月
[illegible]の糸田毎ハ分かる田の[illegible] 仝
横[illegible]方別又臭ハ天口
[illegible]を[illegible]尾乃宮 [illegible]丸

蓑や川と云く庵の明く里　可好
元と知る勤やと云れ嬉ぞ　一入
若ひ世帯りぐ辞世もぐさと　天口
別の庵よつく新ちぐ運　杜と
鳴と云る鳴りちくてん　志乙
面白り鶯技よ萩雲橋
郭香北きる嬉ぞ鳴り弟と内　天口
寄分答の蛙　浦ひよ出る　志乙
元へ花く接売斗当ると云れ　可好
打今ひと良夜の空よ書る安　仝
蛙よ魚釣りかど兎の門　天口

鶯の竹ると元寄て夜がへり　可好
萩の傾吟かだ今伺の弓　志乙
中てもりけち釈指と祝　仝
猿面を笑よして泊る赤鳥の指　天口
碑に忘云れ仏と云ひ迷　眠子
元て言ると元性力よ家作ひ　志乙
片ると花や仏ど添しい　一入
寄戸ぐ落ると祝の元年　為丹
附ア繋を嬉花して行て物風　天口
ちで殺ッと花りよ魚慶　弟月
独乐彩とのぞき　俳天　天口

中と書てひとりこと能き撥　可好
仗仕ると百姓の長　一八
書しも仕事丈を弾し　天口
仙のもとりを亮り懐　れと
鍵文ゑく知ると秋の夜　寒み
歌ゝ知りよ公川の宴　れと
高野宮八龍蓋井の山雁　呂石
弱瓢ゑりもとりみれ鍵宮　三矢
飛ゝうひ松一色れ仕立除　一八
鳴ら脚く書ると無ふ　寸口
玄仕の高沢内殺ゝ蛍　抱丸

為人に嘱ひ手抜ひあよ技拍ゝ手　可好
出文を毎れ屋り完の一こ兼出色　三矢
庫ゑ李白を渉し一矢為　可好
大関ゝ南方平龍ゝ色せりの　天口
面濃き乱ゝ〳〵嘲会　表ゑ
退〳〵れ南ゝ出門ゝ宴ひを尾ゝ　為舟
泥浅帽ま一延紙の大丸　表ゑ
陸ひ中乃玄程ゝ脈ゑ男四士　茄ゑ
宮一戦一必業花の玄ひ女房拍　面好
碇り れ入ゝ浦舟乃抜　干流

其涼庵

麦光撰

夜ハ五月蛍化して鶯 三笑
長月八月 切花をふのぬし 可好
気を花く 夜売斗り留るとも 仝
彦が舟の ふ 伝川の関 れと
新星ハ元海を 除キ 新き 海 天口
出く 付を 鳥の ゆも 撫ぬ 九 秋月
いの字も 知ぶ 運よ 遊ハ ろ れと

法ゥのゆ 返る 伝父 父も 去ゥむ 天口
椎で 在九 長 長 き ゆ 月て 仮 の好
面白 ふ 始 未 ーて ゆ る 主 日 ろり 志ム
鞍の 弁 ろて 来く 夜 が へり の好
なーも 碑テも 例イの 行 廉 為舟
鍵 交 ゆ ゆ く 知ゥ く 秋 乃 夜 仝
打レて 在る 苔 業 揺 が 訴人 ゆる 志ム
伯父 仮の 偏 ろ 九 余 け い 合 ま 寄 天口
訪ゥ ろ な や る と 西 ク れ の 鬱 服子
れ り や ゆ ゆ ゆ の 嫁 ハ 毫 ゆ る す口
去ナ ーて 寄 く ゆ ーと 尺 夜 で 三笑

加賀笠の如く葦ぬと雲 三乐
神代の御ろ郷キの乃の好
にがい茶りで煙世むしぐ云 天口
髮ゆもぐテ、筋染ぎそ〻テ、 志乙
笠より生竹キ〻そ先ぶされ 天口
借ロといや竹を被りの紙ま〻 芦言
蓑ト喰ふむ 彩ヨタ〻 三乐
仰ぬのも存理 能力でハ志 志乙
晴日ハ彩日ヨ降る 勤やう 天口
二百 奏つて 四條そ〻る 雲語
土鍋でぬく先 雑多めでハ有 為舟

庫裏から今紙金屏乃 如 三乐
砂うい〻 出 種から塔さ 街 雲語
清りそ〻 ぬ 拵ぬぐ 水〻
賣り合て居る 雑〻麦飯 志乙
四つ切りの 船子なり ぬ生て麦 天口
二白云りて 姑ら森る 雲語
紀乃国筆あれ下駄の まが〻ひ 志乙
鶏雪の鳥ころす 〻〻 眠子
笑物そ〻 孤 拵 洲 可好
運のさき宝れ山ヨ 塔ら五 仝
癖せのヒ寸〻る 鬱れ 鼠 風序

折句集之序を作る　吟ずるあ　志ゑ

詠歌新考しさ巻行りの　仝

つくづくと袖寄さ稼賞　眠る

雲石に掾うんみやくれ酒ま　可ぬ

彼も人の寄くに所作酒賞ふり　眠る

彼の作こと神事ある　天口

拝殿を聰　喜　とこと喜る　志ゑ

新発意ありくの擬乃浦　天口

遠国之十九文庫　りやうし　仝

砂一さ冊と重んで花　鏡　可ぬ

巻軸

諸々会

芳磨擬

巻首

私ありぬ　安　狩乃　矣　たと

撫るも芝花の　中　二階　軒　可好

数の呂中る　ゆる　霞　遠　三示

旅うち　剛り　一下　掘　考る　志爰

神代うち　格式の　ゐて　隔　の　茶た

だうゑ他力　之　長　李　比　嘩　志ゑ

ゑみも　如　代　鏡　向て　春る　可好

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
抱[illegible]て[illegible]るが　離のこぬく　天口
[illegible]ら[illegible]く帰る　語り　舟　雲稀
[illegible]から叩く　清絵　可好
御[illegible]好様[illegible]　[illegible]　妖月
[illegible]が[illegible]る　[illegible]人　可定
[illegible]引　[illegible]　眠子

影の行[illegible]て　[illegible]減り　可好
[illegible]舞　科[illegible]の[illegible]　志乙
二句[illegible]　[illegible]　雲稀
[illegible]の中　志乙
はにほの[illegible]世の中　可好
[illegible]入　[illegible]　雲稀
[illegible]の[illegible]　天口
[illegible]　[illegible]　三示
[illegible]　[illegible]　[illegible]舟
[illegible]　[illegible]　一入
行雲[illegible]新[illegible]　[illegible]　呂石

喰歌すれども喰ふ喰ふと云ふ　吾石
男子もりに馬を切る田植り　桃花
男子伊豆　色ふてたゝ　三示
ゆくゝ附ける鳥スのもの撥ぬ　秋月
乙掛の灯で書れる妙業　三矣
ゑの野も那智の川瀬の色　可好
たゝ〜ゝ云ふ　櫓柄よ頃く　為舟
孝行の者　青ゝ碧立る　嫁入　花月
巨燈うゝ〜ゝ　焼見めが焼て　吾石
中ゝ立ちゝ　信濃よ　机義
晴日を朝日ゝ　勧掛ゝ　天口

退役の高命　移よ実ゝ　脚子
碎めて生安定　馬ゝ退て云ぬ　吾石
為ゝ聊く　高ゝ今ゝ　天　寸口
春しやノウ天の青丸る　紙仕業　一入
四〜ゝ出ゝ　みの仮名　天口
ふて〜ゝ　為ゝ　燈明　桃花
喰のゝ　かゝて　会　行き　吾石
きよゝ〜ゝ　行き　笑ふ　一入
嫁ゝ　入し　萩の花の　可好
狩猟の　極ノハ　行て　嘉　一束
吉し　雅

氷千魔

風郷撰

[illegible]行も[illegible]て[illegible]花如かぢの日　たと
[illegible]よりの[illegible]葉　一[illegible]　天口
[illegible]り[illegible]れ[illegible]　秋月
[illegible]て[illegible]生　可好
中[illegible]より[illegible]掛　仝
[illegible]奥より[illegible]　志々
[illegible]樹より[illegible]ハ[illegible]　志石

[illegible]ごし　掘り白[illegible]　[illegible]　三示
[illegible]好[illegible]に[illegible]　秋月
[illegible]の花も[illegible]　一入
男[illegible]り[illegible]　桃丸
[illegible]と[illegible]　芳吉
[illegible]れて[illegible]　秋月
[illegible]ふ[illegible]　志石
[illegible]ドも[illegible]　三矢
神代の[illegible]の反り　可好
大男[illegible]で[illegible]　仝
人[illegible]　吐月

ツイ冷ヶ淡くて八寸ほどの鮒 可好
金子百疋 沙汰正しい 志乙
欠けて扇額に成る嘆ハ為ぶる 可好
虚名偽れ論義ア村拔余し 天口
笑話一て為る 薬師からのよ 雲橋
流れ中巡る 迴紙の大 夫三 志石
いさ先探く長ふ 節ル 三乐
泳くて浅宮と 稼実イ 眠子
何ンでこそ 兵慶 花月
掃ふ〳〵 ふめる 釜 一八
嘆ふ ツイ 沙汰 雲橋

上下の角よも如先の形の金 天口
拔れ立ち 八卦解金ふ 沙月
毒ふもの 民毒で 雲橋
活論を他人 論 志石
嫁が 薬 て 花ア 可好
庫裏 金 泥の蛇 三乐
元を 突 ふも 可好
遠沈 源義 至 拔 仝
至れ 大 志乙
神 ぬ 志友
他人 冷る 丸 志乙

舟かりて岸に一枝の雲橋
潮は一牧の女なりけり　天口
幸の時雪晃々に濁る　仝
冨で奏で候ふ　仝
片よりて物も濁り水に拂布　可好
凡ゆるもに抱き牛除る乳母　仝
抱くるを繰り女れる声　呂石
云ふ小てる所也　鶴さく喉　為舟
たしり交ぐ手に搔捕る濁り　仝
棒浮る聰春をえて唇　志石
巻軸

嵐六秘

巴勢撰

寄そ
丈の思ひ出の弦てをうへ　秋月
ゆしの絞りよかくり遁る　公月
髪は毒と髪彩は森ぬ　芳吾
杉くい理を那と戻て蔡建　天口
鈍日は弓引が祈祷常数弼　仝
鍛くのうへ家行ものも蔡が足ぬ　志乙
張る老はせ　彩も関守　志求

咲よ去り此世あかせ 刹寂く 眠子
会を待て新像よ立キ風景一 玄橋
掛ぐよ迄手掛る矣之 為月
後うら寂り一下つ手ゆる 志女
費多れ性なハ知さ川雑 志乙
いさめ響て多るよ掛ぶ一 三示
小しくとて多西京乃爰 為舟
新無もなるも甚だも玄に掛ぶれ 志石
ちらげ筆嘲なられかて一ヨ去ニ の好
考ボウく寂め論り又掛め徒 志乙
鄙俳の遊ぶがちハてあもよ業開 の好

黒石も無小ぶれるる乞く 仝
元よ白き切り鶏踊るく 志乙
徒りとどいて 論る 絢り 紅 玄橋
新羅よさぶひ京の俗毋さ女 の乗
甘めて侯爵父よ毋れ 情 橋吐
ちりーさ母しく並んで玉雑 可好
寂つめて紙れ実よ二余り 仝
神風法一 喇叭ちゃうめら 天口
元の初ぶて今鄰慶生義 の好
抵て庭ぶ蓋てゆく京のよ 天口
片々新宮よ囲りれて居る 志己

遊雅を作の坊ゴソト刺りゐ　天口
さんだよハ初ル稀　紐れ結ひ　仝
髪結所り〳〵日の　節シ　三糸
たゞ〳〵丸絞ゑ毋れ　縁ゲ　天口
元を結ス〳〵寄ゆり〳〵ゆ沼ゑ　の好
本ゑ〳〵塚〳〵も金のつゆ　天口
氣のきゑん　八方の　ゆ　志乙
大寅八方年彫ゑ　天口
強ゑ〳〵猫ゑ　の大あゑ　志乙
大工中家の〳〵日の永ひ新　机義
英理のきゑ〳〵みゆ生蓋陸で鯛　可好

五十年之忠生が雛し候の皮　天口
弱日ゑ〳〵うり陸子林し　雲搖
同じ家れ方工ゑる義隆　志乙
張ゑの元ゆ菓ゑ止ゑ　可好
蓬張源義　ゑ〳〵ゑ　仝
来て元ても〳〵角ゑ　桃丸
大切つゆり他人ゑで　志乙
ツン〳〵もケン〳〵も　天口
津灘ゑ名葉人ハ刺って　仝
賣事れゑ乙のゑ実ゑ　可乐
ゑ油

乘雲閣

素龍撰

髪ゞ忙籠の丈も抜ゞ減り　天口
髪ハ抜ゞ髪ゞ髪ゞ森ぬ新　芦雪
突つめゞ形崩れ実に余り　可好
叶ふその新かくしても〳〵　志石
新乃たゞいよ浦りる新れ潔　呂石
面白ゞ始末まるのハを目ろ　志石
新ゞさを見ゞ見ゞ砌さ　西林

活能ゞを出ゞよりのく見てゞ門士　橋吐
正比丈ゞこれかゝト雨も降ゞハ　志石
やゞふゞの家ふ云ゞいとゞを伽　天口
影報ゞ余り　仏　衣　ゞひ一入
れゞ衆ゞ黄くの嫁ゞ老ゞ　寸口
元ゞ抜ゞ節目に見る丈の体　天口
新〳〵れ悟ゞ伝而ゞも若ゞ見ぬ　志石
女ゞゞ見ゞ丈ゞさゞめてゞ門ゞ住ゞ　仝
色〳〵に森〳〵髪ゞを解ゞ　可好
云ゞを結ゞ藤ゞを石女ゞ〳〵ゞ　天口
云ゞ拙玉味写れ苦ゞ泉ゞ手　可好

元よりかり髪かくるゝ　志乙
鬢のもれの引きたちぬ物　天口
文盲なる実ゝくるひ　三矢
るんぶもゝ　雲格
髮ゆゝて、後髮　志乙
おどけ交りなる名人の打ハ利　可好
つら情さ鶏俳も吟ふ高し　仝
ちゝのイヤなめの傍なる格コロリ　仝
愛きなる様面白さ　仝
術さと他人の耳へ入る　孔翁
第扨ハちあてなひを撰ま　志友

中でもいりち　狂歌　ハ　白
追後の志中　根よ実ゝなく　眼子
掘忍れ　夢　舞　ちゝ　彫足後　白乙
ちゝ　根　ちゝ　ちゝ　ばはおしい　雨童
かくし　保　て　ゝ　ゝ　ぬ　谷月
かつゝけ　投　を　ゝ　こハがる　の好
云ひ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　別　風序
いゝられ　ゝ　ゝ　ゝ　ひ　磨ル　雲格
消ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　出　可好
冊後みやげなる人　郷ゝル　天口
丈ゝよかくして丈ゝの精進　可好

物は入る石菜若の安に女房を　雲橋
叩き返してたしなみあさ小　志石
淀しどや私しどやし淀つみあるを　雲橋
面白ふ弓筈ゆてくらきり冷イ　この好
名弁うらかんのりとえ日　天口
さいとえひかぬあるを笠足　楊吐
かるしぶをもぐかんざし汚ぞく　志乙
合点のえやさきの実ばあひ　机巻
出湯でぬくめ雅名めで八角　為舟
吉日は淀おあがらるを笑顔　可好
悉軸

箕風秋

徳母撰

巻首

まるこ安よさのふもとの名菅菜汁　可好
蒙声は性かはなしきり鶯　志石
浦能いたがいよあれ呼ぬ口士　楊吐
命人が泳ムと志ぐ漕行　為舟
奥さ面の恠元部内る曲輪有り　この好
淀をゆうれさ延紙の大疱　志乙
姫思のかあえ薬さ子れ歌入後　仝

嫉しさとたゝむ姫の腹少納言　吐月
ツイ風が清しさでハふいま燈の灯　可好
れもやかゝりの姫を老もるる　寸口
うれしさの仮結びに運ふ鞠　一入
十日の菜ハ　後ナつれの妻　可好
元とねたゝ実ばりも詩よ　仝
挑示伝ゝ木性性を元宝　仝
笑ぶして光一号でかしこまる　雲格
ちゆゝぬとるる事紀の賛　楷吐
あの入る菜若れまひ女房た　雲格
隠ゝ表るかられまひ人　可定

附ふ荒紙　素口ふ　仮ロ　ち　二示
ふの人表ながら方くに結だらけ　志石
取身湯で　暖簾ゆづらる　可好
中てもイッチ　教指　を　純　志石
伝のゝ云ナとゝりふ嫉しさ　仝
記くの撫元摺陳ハゝ云の伝　可好
金梅も赤にるんを　こまいし　志石
二句去りふして　姑を踏る　雲格
抱ゝるふ叩迄せ他人申　天口
条の仏人ちゝくらるまい　机翁
撲ゝもア色ゝ姿の妄相　可好

笠屋く掛人ら来て揚まり　志乙
第ひ所りる　掛行ゆくそ　天口
皆ま者ゑ元を元廣寺切刻　志友
よしんと者神歌ふハ芳ゆる　三乐
なりれもひのくび第北元て死　可好
徳を孤ゑくび掛り嘯て為る　天口
大阪中錦西第元鏡も合　仝
きくぬやくに吹ゆせくのの仁年表計　志石
義武志の不重仕りける払ら仮　千滴
定ゑるハ鍋蓋の大でなどこ会　可好
芋るが吟るめく　彩町　雲橋

面白ひのハ月後れ二人連　雲橋
吟なくくゆやぬ新まる兄ま沉味　木々
寺ま拾る移日まんる寺の仏　天口
能七寺と書打ちくおく一八　一八
くくひ孝性ゑハけ一花鳥り　妹月
お返入ま廣くま都も故イりの　天口
立のイヤ立ぬの傷ま拾コロり　可好
二度目の使志所りと云ふ　呂石
打て立ゑ苟茉棉が訴人まる　志石
茅行も張して八形ぬ加塔の日　木と
き軸

鬼風菴

巴云撰

巻之

紫の糸よ撲る 紛れ漂 宮石

たり氣迸入かまる母丸意悲 志石

叶ぐての新源ても〳〵 仝

雪りへ無辺もしるみより 秋月

大男歌び座で舞鼓敢ぶ 可好

起くれ悟元摺鑄八三玄の作 仝

月の入をもと粉ケ浦 出 雲橋

拾ひかゝれて毎そぶ浮雲 一入

寒くなさのふと百さ〳〵代計 可好

鄙大よか毎年運の指き湯 石二

新の煙なる所ら水さ翠 志乙

霧も矢へも公遠北流生源 雲橋

作る遠ふ嶺ま 加り四 三矢

抜ぎ物を彩搜の舶一さ 雲橋

医者北人ようんぐ拘淡 天口

会ぶ貞債ま宝キ風涼り 雲橋

鍵多ぶて新〳〵秋の夜 為舟

元北新れ〳〵沖合鄭ま濃生蕎 可好

婆ハ婆〻婆羅ハ婆ぬ　羅　芦雪
小笠原形町〻繼て所〻　雲橋
人間乃宮ハ正月九日　可好
舞ノ交りてぬ河童ハ　三乐
神〻り和に〻〻ぬ相撲　志友
鬚の行破て〻〻く抜が減り　可好
然〻も深〻ぬ和れ多ぬさ　志乙
癖乃出来たる瞽女の紅猪口　風序
這ふ〻ふるよと〻〻〻ぬ計仕業　花月
庫裏〻〻金紙金泥乃　好　三乐
味しさ伝ふ〻る〻運ぶ鍋　一入

思ふも無ふこぶれ世なれ　可好
世かもぬ〻す若〻で業ド　雲橋
鬚の品中にる屋ちが〻　三乐
大病れ法能を〻る治湘南　の好
文〻づす太刀節多れ世の智恵　仝
仲人さ〻しおりふ　居こ　一入
面白さ〻すれ耳〻〻〻善の待　の好
木さ〻元〻〻て〻〻の強〻彩　仝
恬忍の婆〻〻〻〻の彫人法　志石
来て居〻と吟キん〻〻き被　天口
伺う〻〻〻と〻ふ嫌ーさ　志乙

沢山ものるなりり森て居る　吐月
笠捨ぬ元に思も有の義理もあり　志石
赤や宮ー始て門口仲乃石　可好
合点の耳乃痒キ下　話者　雲格
思ーひりの掛乞の二ッ皮　眼　志石
為変りひ切ぬ面白い為重石　楊吐
元ハ翌ス〳〵突中りふも詰出る　の好
濡ク手ふひ乞　新ふ　いろたい　雲格
冠りの似く花の仮名ほくひ　天口
峠ーさを乃ーとる船ーさ　弾林
芋軸

水雲閑　祇江撰

懐思ふ乗ふ〳〵ふの新人語　志石
影の竹破て来て服が減　可好
袴も一ッ　牧　女なりり　天口
健交ふく〳〵ふ河〳〵秋の夜　烏舟
樂屋〳〵声ふ〳〵も少ふ　可好
きらぎらと霊慶の千咒為て来り　天口
魂又　設　日〳〵に新ふ　仝

人百年の風雅に眠がるひ　吐月
仲人が形くてし焼き茅　三笑
淡合へ作る一緒ぎくけ込　眠子
碎くこころ生死やりるが長て去ス　志乙
掛り人起キ　俊名光ひ門よ　蘭翠
田霧明きこころ指も板帯　木々
神ちり命に知くぬ結廷　志丈
情者を付く新く皆の眠　一入
書かを嘯して書く止初世革　風序
いさ海かり浦の名波　北と
書ヤと文ての名我嘯　芦雪

熊野く鳥こころ生死で嘯　眠子
参り参れ知くぬ嘯あり命内　天口
吉日の海面ちがくこころ影飛　可好
ちくハ化ぐけ盤の地　茄右
ユヒ　ほヤちくいけ　琴橋
名ちこ出こる矢の御名ちぐり　天口
乙ちもちくびこれおいて春　可好
庫裏うく金紙金乙姪　三乎
いろくれ飛ス文一面紙　志乙
ちくこと命神こる裏張ス　三笑
母の海ちよ前く寸ちく條　志乙

義仲之印ゝ[illegible]ゝ世ゝ[illegible]り　天口
[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]る谷　一入
[illegible]行[illegible]ゝ[illegible]後合ライ十内　可好
合[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　雲稿
[illegible]の[illegible]注　[illegible]り乃日ゝ[illegible]　天口
注ノのゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　仝
羽叩きをして這入[illegible]　大吉　一入
家内ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の用　仝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　寸口
日張ちゝく塩と[illegible]　可好
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]人の[illegible]　志石

一[illegible]　南千　[illegible]　実[illegible]人　可示
仲人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　一入
金子五疋　[illegible]義　[illegible]ゝ　志石
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　天口
[illegible]ゝ[illegible]の一人[illegible]　雲稿
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　三矢
言ひ伏の[illegible]ひ内[illegible]　椎丸
他人が[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　志乙
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　天口
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　茄右

巻軸

二斗蒔
下物撰

巻首

たつた今焚きすられて落葉り　可好
折くれ振袖遊女の花もとに　一入
妻子せがみて一日遊ばせ出ん　可好
紙衣者　きれくの檀乃浦　天口
徹も人の噂に出て祇園祭り　眠子
徹と搾ぶくハ人の初りも　三乗
二度目の桑に乗り　乗槽　乃舟

清盛れ大名振りに喇叭　三笑
矢ぶすま　可好
夫乃為に謀れ　賊　たく
おりろさ面方の耳、それの待　可好
智者　天口
徹徹々乃老の新く　可好
四時と出て乃老れ仮名ぢり　天口
がいこと徹る新て福ノ相　志乙
て何れ苦出て老の老　一乗
大名乃抱を夜光れ乃　可好
徹乃乃乃る聲女の紅樹ノ　風序

剣イよ高く分キ剣イよ　おふく　志石
田の出来に民丸竈の炊キ煙り　天口
大男数び彦七　蕗ノ薹ぶ　可好
旱魃ケ　水　炎天る　佛法　天口
砕くる生命ヲ馬ぶ長生き　志石
彫刻うう　ちん紙金泥れ　三乎
思ひ三重ヨの　ちんが　可好
かくて後　金らんの虎　袖　天口
ちん出　ケ　狐の伝ヨ　可好
義理のちがうみ　名達で　朝　仝
玄関に　ちんまくれ　仝

若武者は　仕りける　松ぶ　千滴
えりの石乗が　敵て　妙房　寸口
捨ってえ　人　八ノ瓦　志石
大坂、帯り　名ちん　冨士見酒　木々
可光さ　仮名に　仮名海　可好
ちり　迷入る　母れ　志石
魅人　紐　仮名ぶ　蘭翠
来く　ちる　拵ら　天口
ちんで　殺　そと　花月
片　新　宅　国りれて　志石
無の　交り　果テ　妙源　三乎

流のうゝ姫も牛を追ひぬく丸　雲橋
上文
きゆる活る喜〳〵　可定
格の咽を忍ち流れうゝ羅　風序
日活ちらく塩、、蕩る笑　可好
うゝ壁も形多も川うゝ竹　仝
呉屋さ笑て琴ぬ心中　三矢
大関は西方ごがくうゝもりの　天口
田舞ト乃月丸光る水盃　三乐
掘りこ舞ーよ仕ゆんぐる菓子　三矢
風の格廉ゝ丸漬紀州嫁入　天口
巻軸

呉藤舞至席

あ藤ゝ、退ゝ仕ゝる丸ゝ　寸口
暑寒の外よ古、、ハ、、
我胸を探る藤ゝ日の歩ら　一瓶
かゝゝの糸を洞る出入帆、
ゝゝの内よ蛇ゝ末の蛇ゝあ　一井
ゝ丸ゝゝよ蛇ゝゝ、、猪吐
東柄の蛇ゝ勝ゝ、コトリ　一井
塔巻の仕ゝゝゝ勝ゝる　一入
蛇恵ゝ京の夜後　寸口

鳴る川狩たらの川に只為守口
出さぬものある西ぬき　橋之
嬉しさら流れき水の子と罵る　斎中
常ハお伴をハらみん暮らる　天に
銀子皆子差てる新ら覚業流　寸口
向ふて細そうに口を吹ハる　橋し
噂う流キハ気さやきこききる吹　一井
柱世家ら〳〵の嫁の年ハ毛　寸口
門の馬ぬれ子見ゆれ役柄　篇
金くさく今も急ハさをうふもん之　、
負けて来都し庫裏て添とおる　天口
きらきハちきしく子市の例　橋竹
追ひ小嶋女ら女らくるかの来　天に
川遊り気母ひ女の情ろ見て　可好
物版の子柄ハ后子家長り　橋し
なをさるにこめん嫁月　篇
人の子恥て我子いなく　篁
新くもお恨き悟子ら浴辛い　一瓶
寄しらる机子心の流て状　橋し
雨てしこうひ切ちるオイナア　篁
行衣も飛代家の子来なり　一井
きとひらむのかましきのきし　天口

ひとふれ　枝をもぎ　一井
きりとる　ひとつ　名人　情仕
女ひとは　形ちよ　切割　楊
まぶ人の　達一　ちよ　紙　差
之従の　きりもの　水の名　情仕
だしよ　深く　双六よ　法　守口
近所し　云伝　紙と　建　差屋
ちよ事の　てんきう　蒙る　内蒙法
きりこ　ちよ　法の　楊
ちきあよ　孫ちよ　系と　孫し　呂石

おりこく　ちの　客小　資か　向り　必ま
渡ち　巻りて　紙ちと　又ち　孫ち　桑ち
踊のち　ちまち　年わち　守口
石ちり　て　ちよ　来の　一言　江南
ふ　仮や　思ひ　切て　嫁　入　美水
ちと　ぬたく　のち　掛りき　ふ　義ち　守口
うすきぬ　かたく　仕ち　祝ちの　桑ち
秘理人　を理　ちよ　ちち　紙　守口
月ふぬ　ちや　せち　ち　紙ち　桑ち
本佛　沙り　ち　ち　嫁り　呂石
此京　ふ　ち義　一　ち　ほと　意　守口

[illegible]係[illegible]葉　可好
[illegible]のさかなき　山木
[illegible]菊屋
[illegible]人　日野　[illegible]
[illegible]八[illegible]　志石
[illegible]　菊屋
[illegible]　一井
[illegible]　抑
[illegible]　[illegible]
[illegible]　橋吐
[illegible]　一瓶

[illegible]神の水[illegible]　都右
[illegible]のてい[illegible]　一井
[illegible]　一瓶
[illegible]田よ[illegible]　、
[illegible]　菊屋
[illegible]　可好
[illegible]　一瓶
[illegible]　すい
[illegible]　[illegible]
[illegible]　すい
[illegible]　一井

二十度下物

真実の茶ふくれる連歌一瓶
聚ひの実うけて来る言葉 可好
んかて遠て方孫の[illegible]水桶 嘉花
其張より物を名言もつ[illegible]もまん 志石
言しひ人とさ而ふ[illegible]ね 紅葉
拾ちゆさぬ茶ふ[illegible]茶うもの来 寸口
拾ちる事あれ[illegible]ふ義[illegible]かれ 惜吐
作ひ[illegible]茶かたて[illegible]ふ 菓陶
[illegible]寸口

書よ笑ちれて[illegible]日の義[illegible]ふ矢[illegible] 西惜
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]て[illegible]ふ[illegible]孫 惜吐
[illegible]悪[illegible]辞[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]体[illegible]ふ[illegible] 菓陶
張も喰公[illegible]ふ[illegible]ちと[illegible]ふの 天口
死ぬ[illegible]ふ[illegible]経[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]れ 紅葉
[illegible]ふ[illegible]八[illegible]年[illegible]年[illegible]ふ[illegible]之
ねむ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]一井
[illegible]毎八年高生の義[illegible]あ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]近[illegible]仏の[illegible]ふ入 菓陶
又[illegible]月小[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]七月 西惜
[illegible]母の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]屠[illegible] 著書

春ゝよりちゝ母ゝ八我も老 寸に
かゝるゝ悟りを桃よ菜の香 菜屑
吹ぬよりゝ丁兒八ゝ母ゝ屋ぬ 高中
祖師の爲て下時ての峰をとめゝ 寸に
ちゝ母ゝ分ちゝられよりゝ 揚之
恵のある蓋八ゝ母ゝ屋恵ゝ、
加ゝちゝ上ゝ屋ゝ上ゝ戸あく ヒタカ 高有
侍ゝ費ゝてけるゝちゝ母ゝ寸に
祓のゝ母ゝ牛進ゝ 揚吐
面ゝ母ゝ屋ゝ屋ゝ高ゝ 高中
春ゝ屋ゝ釈ゝ有ゝ屋ゝ 高有

寒ゝ屋ゝ乃ゝ春ゝ下戸 志石
京ゝ流ゝ屋ゝ西ゝ屋ゝ理ゝ 揚吐
新ゝ屋ゝ京ゝ有ゝ京の朝 クロエ 星埜
行校の梅八味噌樊ゝ大ゝ答 眠ゝ
あゝ屋ゝ屋ゝ屋ゝ屋ゝ琴 高有
京ゝ屋ゝ地ゝ暗ゝ八コトリ 一井
ゝ屋ゝ人ゝ仲人 持八ゝ屋ゝ入 、
望ゝ屋ゝ屋ゝ狐ゝ屋ゝ 高有
春ゝ屋ゝ所ゝ費ゝ屋ゝ 一祝
先ゝ屋ゝ時ゝ屋ゝ屋ゝ屋ゝ 一井
男ゝ恵ゝ屋ゝ分ゝ屋ゝ屋ゝ屋ゝ 書曉

[illegible]
姫の運より見よりてぬ [illegible] 茶水
欺されて石母のねゝ母月枝 [illegible]
侍奥絡[illegible]の肩より生姿 凡柳
[illegible]
物[illegible]
肥後を自慢[illegible]ぬ 天口
侮りされか[illegible]の女夫中 指吐
[illegible]
かゝれ[illegible]

[illegible]
後持の減ハ本のもこ正味く 志石
仮名の人事さ中よ入るゝ一瓶
嘱さ[illegible]ハ口[illegible]の天口
あ[illegible]の心の神(ハ仮 [illegible]
お場と止りヤ[illegible] 可ぬ
[illegible] 使う出ぬ 指土
男とハ[illegible]ハ解て[illegible] 寺中
[illegible] 蒙活
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

今にて世を悔む歟 呂石

嘆さハまよひて [illegible] 立門中

外情の家に近き南朝 [illegible]

人ハ幸抱 越前の親王 天口

[illegible]の母盃(スリ)絨(ビロウド)に行ち(ノカヽ)可定

遠江と力ヨ母の根ニ浦さ 夏雪

時入とめてたり母の間くゝ 凡柳

落ちるを接ぎまうるるを [illegible] 寸口

鷹とる歌 世房氏 [illegible] 夏雪

[illegible]めさ月ヨ落ち [illegible] 春花

[illegible]

曲天陀 寸 鯉

恐ーいよ、墨屋のの[illegible]盛寺 夏雪

柳ヨハ我ヨと岩風と [illegible] 天口

いろくの方れ[illegible]ねふの [illegible] 雨場

[illegible]ヨ行そ [illegible] 春花

この[illegible]服を [illegible]の [illegible] 美水

ヨみ乳と [illegible] 一丹

[illegible]の [illegible] 一紙

道治の [illegible] 祇宝町

署裏の外ヨ古ハ [illegible] 寸口

[illegible]
又の比八月十五日より稲荷祭　巻石
[illegible]
男女[illegible]　可申
祭さ毎ゝ[illegible]　天口
水の月うけろよ稲荷のよ　、
まん中歌しゝ中[illegible]　[illegible]
キヨイと[illegible]　一紙
[illegible]の[illegible]　すゝ
二日月ゝ[illegible]　新　[illegible]水
大門の比[illegible]　[illegible]石

秋八月十五夜光の月よりあり　、
拙くの恠事成用よ当の稼　一紙
[illegible]　、
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　可申
[illegible]　一紙
[illegible]
[illegible]　[illegible]上　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

七夕や女の恋歌を云伝へ　、

[illegible]　一井

[illegible]　亀紀

椀の皿[illegible]　寸口

廻文
君子ちくく口くそ詐酒　吐葉

縁あれ[illegible]　呂石

汐濱夕立[illegible]　寸口

[illegible]　ナカノ 馬車

[illegible]　橋之

[illegible]　寸口

法界悋気ナアニあいく　呂暁

いかにしても女のみ[illegible]さ　前石

羽織着て[illegible]　一瓢

うきよを捨て許[illegible]　雲皇

[illegible]　寸口

[illegible]上代　橘吐

[illegible]　橋之

[illegible]　、

毎日のむし祈禱[illegible]　雲皇

此花[illegible]　可好

頓以至功徳[illegible]　一井

実[illegible]　橘吐

織の利ル込む条浅卅田　一瓢
半夜とふて寝ちれ経お　、
あやめを摘ちらるな仲人　露言
今まをまれたくる病室の秋さ　系従
志ゆうを作る入答牛の秘事　露言
捨る笠揺れを聞る気揺　信之
唐土は諏女房の何たる金　露言
火宅をとし宅子けれる　言　一朝
鴨と成有八きん以免ゆる　呂石
揚梅子隣家で鳥萬信　ヒタカ孤舟
色と今でさりやらく鬼な賢　眠子　外十八おし
千里の名馬　両鞍、　状
捨ても翁なよ借の身行し之　信之
支婦有る、雨とちるよきる　、
あちこち見るとくるてんお　梅吐
出れい浮工藁い咲る青雲　天口
人をめくる子そそる　ニニ　葉　若木
揚子子喘語あるひ客鬼斃　寸口
吹く六をさしく菊の晩之　眠子
笑止千万　雨臥　ろ　大　可近
死ぬ子猶が喜あり　吉地や　文口
涼しさも諦む昔長き　青牛

桐雨舎巴洞

手業を抱て病く暁かな　英枝

二月有ると八幡ゟ顔　芳水

余所ゟ此因ヲハ降りて名々粧　寸口

新升化ふ迷ふて居る　雨堂

流瓶い届して河を来雌れ　楮吐

馴深ふ東ふ人日哉　雨堂

角力とよふる子逢ひ近江の子　几柳

ふ新しい毎年一ト物　一井

飛毎東くの燕の鼻八先尾　寸口

芳声ふ届い名帰新く連ゟる、

螢に屋のかゝり元ゟ鳥　互石

座敷ねん有彼俄居は　桂芝

蛸と鼓のむしゅい傍ゟ同士　雨堂

清出して見ゆりやえと桜　霜花

き琉清の子梅の河せよ屋をうれ　寸口

清もしと下冥さかれ　一瓢

舟へ咲ふ寒ふある春寒　蓬居

目あより留る先ゟ牡丹哉　雨堂

えの几夫へいとゝゝる　瞬　天口

侵るし様子伽羅の錦すゝる　青暁

淋しさは露の命をあはれ也　、
何となく咲ても花はよしの人　丹橘
折ふしや雲雀の床の花も哉　一舟
子日してけふ猿楽見る　橘吐
寿く年来ぬれば清して餅ある　丹橘
何と蝶は花に咲散られ　凡柳
遠目の竹の雨に霞みしてこそ見ゆ　一両橘
咲き雪に散て菊の残る跡　橘之
勧めても須磨の秋の夕　橘吐
外科にも術なし腹切れ　可定
のりも吉野の花の盛の子と桜　寸八
初音聞く月の夜すがら待にけり　橘之
手向けとて八百の花かな　橘吐
まく露も散て秋の花　桑花
よしや花も繰武あり　橘吐
芝川も鴨の目の　橘之
尾上の松の母の通ふ　呂考
虎は姿ほ法ふる名　天八
夏の尾花やさしく　葉扇
声も入る月の風　、
待もの母の　丹橘
ちり散て飛ぶ　橘士　寿鏡

汗のまと馬て掛のてきらう大切　一井
行しゝ云うあるうかるこゝ也　宗屋
まのうくこ羽織る事あの宗屋之　西宗
次の一掛こて私こう使くうし、
あの宗のこくいかるかるいちんえ帷　一紙
被るこはるよみしほれ　宗屋
前迄こ絵こ宗のは掛　すに
ちくはうくあるの絵の紙之井当　なて
堀巻の付れき仕んを記れ除　西宗
稚七宗稚七宗こくこ来る　志ん
羽織るくこ宗陸宗　掛之

奥花　宗屋
奥こうこ中あをるくこ　西宗
宗てゆかきはまくこくこ　掛此
扇ハ表ゆ扇草う味ゆ　天に
奥こうかるこう紀の巾　一紙
あるこう巾こ宗あるみんは　一井
料近ハ宗ゆこあこ　宗仕
紙紙の表寄くこ宗こ肌　の掛
合宗ん宗巻巾宗ん宗ん　掛之
抱くまて合ひ右掛て　西宗
寒こ宗こ上宗の遣迄紙　う好

けふる事は浮世の僧子咄しするゝ　ふろ
きるゝしかおもしきれ入字は浮子　亀友
一生を留主にしてくらして子は味ひ　一井
何事も角にも人は中の日綴雲　可好
抜れぬをさか石あるものにて思ひ　可定
翌日へ余多を網にかゝらしう浮て居る　雨堂
笑皆の羽織其外にてくやしニヤ　菓源
淡子か連さくさ水の中にとられ　矢九
新らしさを流さ夜チヨツキリチヨ　寸口
未婦しくして七の身てあし　、
当世の流行に入しまし五十の暮　橘吐

花月庵　保仲

見るでも神さんと女丈夫一物　一瓶
拳開かしぬ弐月の色を放つ　橘吐
何事も天下の女の路月枕　寸口
晩ち知らされしと本妻あ　橘吐
支配の勤ハ飛き寒ても味　寸口
されとけの主ら名を浮れぬ者　橘之
料理人へ手段おもらうて腕継　寸九
菓子あらしく義ハ儀ぬ　可橘
入り延しさも残るの息　一瓶

果報八餘てコレハホ　　天口
深ひるの秋よハ夫ハ　　ハ玉の　茶屋
かんこを　後迎し　　天口
おまえ入古紙一ふくろ　　十口
花咲く春よ　　ハ
春の之ゝと　　ハ
富士のうんでゝ　　信士
春を　　おと
行脚の　　一祇
まゝ　　ハ
春泉　　信士

羽越ヲ経て奥千里ヲ行り　一紙
今ハしなの行めぐる伝氏ヲ経る　寸口
景門ハ　跡法　ハ
仕子ハ母ヲ行ル京ヲ経ル　ハ
母ヲ捨て子ヲ捨て京ヲ出り　凡抑
樊噲（ハンクワイ）ハ高祖（コウソ）ヲ救ヒ　一紙
面白キ人の男也　相終ル　凡抑
ヲ捨て何ヲ学ぶ　内　学人
吹ハ上ヲ分り村のまゝ　ヨリ
而后ハ　ハ　天口
ヲ捨て人ヲ学ぶ　蒙福

ヲ捨ハ人ヲ学ぶ京ヲ捨て　可好
汐紙ハ　信濃ヲ経る　文言
我ヲ捨て時ヲ学ぶ　一京入　寸口
信濃ヲ人ハ郡戸ヲ入る　精吐
母親ヲ捨て男也　凡抑
捨て月ヲ運ぶ　眠る
ヲ何ヲ捨て京ハ　寸口
人ヲ捨て男ヲ学ぶ　ハ
捨て学ぶ　志石
捨て男ヲ捨て　文中
俗ヲ学ぶ所ルの　廿支中　精吐

侍の倅も、侍も業の中　橘之
持てる時誇盛ん参ても貴　求口
何事の春るにさる〳〵雛五六　雨堂
簪(カンザシ)で仕くと拘るえ八ツ九ツか　一井
従柄ハ何ら〳〵子孫計　寿中
門に山河走りは屋に松〳〵哉　橘之
文を飛ばしてる　空蝉　芦雪
諸人は森の女房雷動き　天口
ごろ〳〵の下りきる雨る内蓋信　萬偏
帆らと掛と家の冬なる連れ　、
御ひるまみえ縁のある妓の子　一瓶
あさに紅、ある帰れの鶏合　雨堂
親のみよと祝も葉こ迷うぞ　呂石
帰る車を招て所を法(のり)の車　風柳
まんまと〳〵を鉄なる　可好
言わんでむ松の月を中く　萬偏
嗅ぎわけたもの丁児ハ家の隅ぬ　寿中
廿句論京ハ出家も　可好
こるや飛ぶ〳〵空へ飛びて　すヽ口
今の人ては年文の店は此し　萬偏
手に海のまる娘の鶴(シヽ)、張子　一瓶
嫁て家指で訪る花桜　橘之

後生菩提罪障山

後生の仕あんと思ひて羽織脱く　嵯峨
涼しさを　はよ　ワカ山　机霊
ものあら抱て寝ぬ　嵯峨
物よの憂　涼　しい　里蟹
ものの花　すい
寝て年かさ　橋立
恋のあい　師の
恋慕　ちる　嵯峨
使ふも毎　すい

笠　羽織　の　灯　嵯峨
おもひ　ふ　志ん
おもひ　嵯峨
生　仏　嵯峨
恋　寝　寸ル
恋　寝　寸ル
恋　寝　月師
恋　寝　月師

[illegible]川下京てきしよりの　一紙
[illegible]おなじ遠江国のみなかみ　可好
[illegible]ハ陸奥の　丸橋
[illegible]味噌を用てあるしてあるう　高山
連の女く　[illegible]　可定
[illegible]　第隔
[illegible]　橋立
[illegible]高の寡かゝ母ハ　寸口
[illegible]　丹後
[illegible]　一紙
[illegible]　寸口

[illegible]　一紙
[illegible]ハコトリ　一井
[illegible]　一紙
[illegible]　寸口
[illegible]　第隔
[illegible]　長谷
[illegible]　一井
[illegible]　可好
[illegible]　第隔
[illegible]　丸橋
[illegible]　志不

妙なる稜條よい物を夜見定めて　芝居
おんな記を見て生れつや　あん　一井
藤をもとく趣負よの為證子　、
門に馬よしいこもろ役所　草庵
桜色の女郎八ゟくてちそうの　可好
大無常句挿ほめしも弥立ける　寸口
白露よ返して独身子よらるる　風柳
錦繍文絲清きをとちる　万水
凡の多く桜今いらの蝙蝠の行　丸橋
清ちて見るやうんとて在の嫁　二喜花
流党の宿して鉢かかる観　可好

知ちがいいそうて二階生人立草　雨堂
お宮よ不見機一ふるよ待ちとふれ　寸口
角ノのかく人ハ花見ととる　名石
大男おくとまふくに紙るまえ　一瓶
梓の物ゆきを取くの茶る　可好
めでたしもせん　子ノ日　一瓶
能母屋ろ雑くの姥家の玉い花　寸口
掛想が女の子ならせんの見ず　可好
も白しをらも居宿の好　丸橋
行く方人事花田子歯の詠　一瓶
命を枕よ　ころ　宮ろ障　芝屋

[illegible] 一組

[illegible] 紙製

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 寸口

[illegible] 長名

[illegible] 可疑

其涼庵書きぬ

[illegible] 男之 [illegible]

[illegible] 頤 寸々

[illegible] 天口

[illegible] 元稽

[illegible] 一組

[illegible] 差書

[illegible] 一組

[illegible] 代氣 稽之

[illegible] 帳ニ記ス

[illegible] 夫口
[illegible] 凡柳
刀佩[illegible] 寸口
[illegible] 拓竹め 志石
[illegible] 夫口
[illegible] 一瓶
[illegible] 眠子
[illegible] 一井
[illegible] 呂石

男一疋 [illegible] 寸口
[illegible] 橋此
[illegible] 呂石
[illegible] 橋之
[illegible] 凡柳
仮名のことを [illegible] 一瓶
[illegible] 寸口
[illegible] 橋之
[illegible] 凡柳
[illegible] 橋之
[illegible] 橋之

[illegible]の[illegible]作るのあれば 指之
伽羅[illegible]の[illegible]の[illegible]と一枝 竹な
[illegible]母の樹積九 天ロ
[illegible]の[illegible]方 [illegible]指
掃除[illegible]義を磯ら面義ら 天ロ
[illegible]の樹に水 指之
[illegible]人の[illegible] 貝人
[illegible]きら[illegible] 天ロ
[illegible]物[illegible]より[illegible] 額 寸ロ
[illegible]ら[illegible]く
灯[illegible]月[illegible]ら[illegible] 天ロ
[illegible]の[illegible]ら[illegible] 一瓶

白[illegible]ら[illegible]ら[illegible] 尼[illegible] 一
[illegible]の[illegible]中[illegible] 一瓶
[illegible]の[illegible]の[illegible] 寿
角[illegible]柱[illegible]ら[illegible] 四[illegible]
[illegible]馬[illegible]陽[illegible]の[illegible] 指く
[illegible]風[illegible]住[illegible] 内 宇ロ
[illegible]貧[illegible]の[illegible] 筆隔
[illegible]の[illegible]人の相 寸ロ
水[illegible] 眠る
[illegible]東[illegible]切木[illegible]撫る 一瓶
[illegible] 指く

[illegible]の切て[illegible]ふる小松竹　蘆花
[illegible]　搗吐
[illegible]　一瓶
[illegible]　可好
[illegible]　[illegible]
[illegible]　凡柳
[illegible]　搗吐
[illegible]　[illegible]
[illegible]　搗之
[illegible]　蕃隔
[illegible]　[illegible]

[illegible]　一瓶
[illegible]　蕃隔
[illegible]　搗之
[illegible]　蕃隔
[illegible]　蘆花
[illegible]　一瓶
[illegible]　蘆桜
[illegible]　一瓶
[illegible]　一丹
[illegible]　寸ハ
[illegible]　搗之

常筆書作

[illegible]の生凍（カコ） 橋之

[illegible]の[illegible]比真者 一丈橋

[illegible]母の脱ゝ迄[illegible]る無之 [illegible]

[illegible]ハ[illegible]と[illegible]ル 天ロ

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ル[illegible]ル 橋之

母ゝ夫 [illegible]ル、

和尚の[illegible]ハ[illegible]ぬ紙[illegible]夫 里號

[illegible]家の[illegible]ル[illegible]ル 一紙

[illegible]ハ[illegible]ル[illegible]ル 寸ロ

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 青中

[illegible]人 [illegible]

母の使ゝ[illegible]ゝ近[illegible]ゝ[illegible]ゝ 伍吾 寸ロ

[illegible]て[illegible]ル猿猴の[illegible] 天ロ

人の[illegible]ゝ[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 風柳

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 天ロ

物[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 一丈橋

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 寸ロ

余[illegible]ゝの服[illegible]ル[illegible]ル、

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 一紙

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 一丈

[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル[illegible]ル 一丈

里ともやつくろふ家の呼水　梢之
梅か山あれぬのわらしや　丶
鼬のんゝ咲くまゐるぬか　寸口
穴よりもみ出たよみたる室のよさ　垂穂
裏只の古活念うる獨り閑　吾楼
法華よ物売れ売しき　姓　山本
売ると猫抱く子の声いとまぎ　一瓢
隠きものをとちて閑の楽しさ　丶
煤掃ん精子よきいとまぎく　瓦雪
萎しんれる参詣て清入ぬん　一瓢
母の顔も知らぬ人の月　梢之
依袂の床よ近よた角のらし　鬼雪
依よ貴人て咲るとをある　寸口
よれさてわきて咲すて起しを抱　素橋
乳母よ膝れ傳ふうく　里旭
寿んと出れ生とくるをつき　寸口
河ききて花見かうの世惨り　丢雪
たしかなりし宮川の仔まれ　雨雪
丹物門外の家よ入の声　丶
逆浮の陰川まきくる狼罪所　一瓢
梶原平次切小刺擬る　丶
噂とりわきよりの羅よ臭の先　天口

がいるとみてるなのもくひ位又　呂石
行位各八四角ふ文字の浮彫　吾嘆
塚ゴ若げかんを位きを位ヲ吹　天口
吹あゝ奏切ゝ小二帖く　指之
人のゴ踊て拔ゴ入ゴく　呂石
うんとあほぶゴ代ゴ奏ゴ　の指
呂位ゴ出ゴ奏ゴ長ゴ清延　一瓶
習奏ゴ長ゴ秋の日の赤さ　九杯
日本住の秋ゴ色ゴ位　呂石
ゴ人ゴ高ゴ又ゴ　江南
作ハゴ乳母ゴ嫁ゴ姉　奏

清ゴ小ハ奏延ゴ　指吹
約束ゴ居ゴ地行め　志石
相場ゴ出ゴ合ひゴ　可好
玄宗皇帝ゴ後ぶゴ好　一瓶
奏帝切ゴ奏ゴ整ゴ　拔壺　吾嘆
ゴ人ゴ高ゴ長世房の　指之
武ゴ行ゴ位の中ゴ入　枕紀
奏ゴ出ゴ奏ゴ　呂石
無ゴ遂ひゴ若ゴ　江南
聚ハゴ位ゴ　宇ゴ
奏ゴ奏ゴ奏ゴ　呂石

新しく寒さ参る京の鋼　了佐

哀れ僧として私銭入と　守口

未だ有馬ハ湯を水にする　梅之

足も子ハ知るも知らて住は修家　志石

哀ハ来て通ふ仏の夜に入　蟲隠

有明子隠くれても見えにけり　為笠

貴人實人の比持手范蠡（ハンレイ）　、

お年かくへの宮ハ一家の　可好

滝て角行及ハ寺の鉢の母　呂石

幾代の毛むし織人占て　一瓢

老弱の様思ふ気皆子哉　眠子

水ノ千庵風句

唐ハ来て体むかれ見わり女達　一井

鶯ハ年々家の刺く哉　播之

賑の負るを工夫する病あり　橘吐

秋の近きを知る年追ても　、

弱虫と隠れて信子の為　芝香

思ひ出させるためおれの集める　呂石

人人の様親子ハ見えてめでたし　蒙隠

子宝の青葉のいらぬ居有　為笠

生物ハ配て吹かせ知り魚ハ之　志石

[illegible]行の中ゝ 槍
大笑ひおヤハるなどヨレと[illegible] 眠る
金沢ゝ用ハ[illegible]ゝ相憑 [illegible]
[illegible]ゝ [illegible]
人参四[illegible]廉(レンチヤウ)ゝ[illegible]顔 槍吐
必ず、嗜て四[illegible]に[illegible] [illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ [illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 槍
用のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 第陽
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 風杯
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 槍吐

奴[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 第陽
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 寸ロ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 、
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 第陽
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 槍吐
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 可好
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 槍吐
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 第中
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 一種
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ 寸ロ

行ろうしん瓜二灯ろうしん　長五
本弁ちやあんとこめさけお　寸口
不わんろくきんとうく猪　口六
ほのさんさんてんろくろ鈴　重居
行ぜのあてるろうの能なし　宮
ぜんぜんろうぜんくしの生鶴む　一井
ちくきんぶんろくさんくきんく　東居
字孔とるて面ちの法あ　一組
ちやしぬさろうあめるろ兵　西宮
行ろう重ものの鶴の逢の組ら　一組
ちんやかろうくろ嘿止ろきく　天口

寺長見ろろ服ろおろろ市ろ旅　秀水
弟国ろめ弐日の居ろ知　橘士
ろろろ新ろ白居ろ知ろの　可定
姉ろさろろ足ろくゆ逸　寺中
寺ろろ寺疑ろ居ろ居ろ　寸口
行ろのろのろ小ろ生居　ろん
一ろろろのたろ小紫　位　風柳
京内（ミツセウ）岡絶ろろ　ハつタイ　可好
カ一ぢんさしてりく　作共ろ氏
ろい仕てちろ矢身ぬ小挑灯　長を
ろん四てろ行ろ同伝てろ　口六

男一疋者ハ 歌さしル 肥布
ほうこ 毋 帝 一 麦の麩 一井
あと 泡 よき ものの こせ 麩
ゆる 武蓮 元 元 清 清 京晩
元義 元 あ 元 毋 親 猪吐
元 西 帝 御 近 元 せの 一瓶
東 ンカ 南 ンナ 元 稲 麦 喰 一井
長 帝 下 元 ゆ ゆ 石 元 量 元
育 大 と 貴 帝 仕 元 元 用 一瓶
尋 元 ひ せ 元 御 元 ひ 麦 隔
欲 ひ 元 ひ 元 ひ 元 ひ 猪吐

寸上
猪吐
只
内
一瓶
志
小便
可
寸
水の
猪
長
元

春小雲寒まふ就

[illegible]の間の掃除之事不[illegible]之事高
[illegible]鼻[illegible]橋之
[illegible]
[illegible]の仕[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ちさふ[illegible]き　可如
[illegible]寺の[illegible]　素校
[illegible]て[illegible]　祝紀
[illegible]の[illegible]　一紙
[illegible]　青中
[illegible]　天ロ
[illegible]　[illegible]
[illegible]　橋吐
[illegible]　天ロ
[illegible]　橋
[illegible]　橋吐

[illegible]　如[illegible]
[illegible]　橋之
[illegible]　、
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一井
[illegible]　[illegible]
[illegible]　、
[illegible]　一紙
[illegible]　[illegible]

後ろから連て来るルのふとりかり　天に
ものをとりかけるやうなるもの　呂石
ちかいて後あり汁をの者　指之
くぐり突かりまて行くハの文の者　寸に
毋親のもとまてまてある男　凡仰
明治廿年五月八日　の指
ちかつてとてもきくの内書　手屬
あるとも指り五陵を從　一孔
者て呼ふ小行義ふくく　呂石
云伏のカハ拍てとてみとるかを　寸に
悔るルの女文事　指仕

京の毒るるるの孔つに流下る　芙蓉
うたく孫の抄行をうのくつ　青中
あるり人と伽良を張る　丹指
服のちるもと指りの貧もく　指仕
秋之花房る夫に秋の月のふさ　凡仰
常世の流るも六り五十の雲　指仕
捨てらるく指れと行る枕板　指之
彼まるりてきるんに木の彼　一孔
を〻時方にうるる事と陸く　指こ
捨てえ〻房ちあれ　手屬
ちりて炭も炊の者　指仕

[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ものの外　一瓶
世[illegible]のように入りし　戰（つかり）　[illegible]
[illegible]ハ今[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　一瓶
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　一入
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]と会[illegible]力[illegible]

[illegible]（ナヲサル）[illegible]の武[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]（キクヨシ）[illegible]　[illegible]
[illegible]（ウトンケ）[illegible]の[illegible]を出[illegible]　一瓶
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　一瓶

見合のり形を拵く毎七姿の事　指吐
氣新よ之絵に姿の名明く　天口
カニナラス　敬屋之内さく見とや　指吐
用事あをこらん　法制　青中
供ふあるよ　さくる年　新ち
理をきん物十ら振能　長石
之ら内多美の名　森　蒙陽
彼まあくよきん　一組
母をきよ　人の名　指吐
世俗愛拵る　蒙　一升
元日の雪の信よ　便り　一組

カ　こさを中ま　可ら　節親　指吐
九性　年の外ト　れく　志石
拵ふ上ちくきと　姑　蒙
長崎の書気くきと　所　の拵
伏のあ新きを伏の　の　蒙
形ふ新ふ毎日の形ふ　長石
見之形ふ新ふ年之のむ　蒙殺
送状八封の中形ふ　拵之
文をふ長文の　、
三百日の記に近形ふ　拵の名　可ま

[illegible] 寸ロ

[illegible] 一井

[illegible] 重箱

[illegible] 寸ロ

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 寸ロ

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 一組

[illegible] 一入

[illegible] 一井

[illegible] 大ロ

[illegible] 寸ロ

[illegible] 寸ロ

[illegible] 一紙
[illegible] 天口
[illegible] 一紙
[illegible] 舞
[illegible] 丁定
[illegible] 寺中
[illegible] 石
[illegible] 揚仕
[illegible] 呼
[illegible] 乗
[illegible] 天口

[illegible] 眼板の間を市く 寺法
[illegible] 紙こうし 仕うた 寺
[illegible] 祝 高砂
[illegible] 寺中
[illegible] 吉嶋
[illegible] 大嶋 江南
[illegible] 乗
[illegible] 所持
[illegible] 揚吐
[illegible] 月 揚く
[illegible] 二人 [illegible] 揚吐
[illegible] 吉之
[illegible] 一紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 一入
大[illegible]
協[illegible]
[illegible]
如[illegible]
一生を宙(チウ)に[illegible] 一升
[illegible] 一瓶
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ら大役　橋吐
小田原の珍珍の男の[illegible]　菓店
[illegible]神[illegible]　[illegible]ら大きん　可呼
[illegible]　[illegible]ハの[illegible]　[illegible]
朝の[illegible]　[illegible]の[illegible]　月杯
[illegible]　[illegible]の遠さん　橋
[illegible]　[illegible]ら玉の供　一井
キヨイと[illegible]　[illegible]や[illegible]　一組
[illegible]下[illegible]ら[illegible]ん　脈
[illegible]ら[illegible]　[illegible]ん　[illegible]

[illegible]の初[illegible]　新
水[illegible]　神[illegible]　[illegible]丈[illegible]一物　一組
[illegible]　[illegible]の[illegible]　菓店
[illegible]ア[illegible]　[illegible]じゃ　橋
[illegible]ル[illegible]の[illegible]　橋吐
[illegible]　[illegible]ら[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]の橋　[illegible]の橋
[illegible]の[illegible]　[illegible]　たと
[illegible]　[illegible]ぶい　橋吐
[illegible]　[illegible]　橋
[illegible]ら[illegible]　橋吐

又の海鹿毛者 生まれる 物ども

所くの新発し事の事 指出

末の三ツ巴八四の紋付 寸口

火の〻拵て私ども 多

なる物本性と大性物の孫 志ん

面白さ事の事八蓋の陰 可改

新と子の地灯 御〻 一新

侍の事八面白の事 業語

物ども〻ども〻きく 面物

巳又 赤の名いきしかたし 多

理と仇ス胸すぐる 脇の跡 呂石

鬼丸麿巳 之

頭のようなまるの事 寸口

ようなる持ち 進ず、

おもんみさらるゆ 陸 可好

矣ん七五又の行八別 志ん

ヲイ〻〻門の戸の 天口

朝ばらの甘ばい八 多

拵神の供連 跡市ヲ立 寸口

拵父し面て拵い止事 物

事侍し住ん不 物の時、

中宮の御母女房の局に凡抑
総入道殿の御母のおもとの、
まさ賀の近る賀茂の御社
きしの明神淀川の堤
猪の走り遠の帆を見入 風雅
稽古の為に参る 雪の
男ひの外新画の人の絵 脚子
女皿に盛て出る 枕理
御前に喰しまゐる長の者 只石
こゝゝと敷て行司出りて 天口
陪膳の男は捨て入口の物の物

異なる手つくり色紙の行水、
大臣殿出給ふと聞て包む一井
窓の内より高の御簾の御孫 家信
敷物を出すやうに出す 寸ゝ
刀紙に思ふ事を書て小 切、
青侍の郎子に渡す初夜 凡抑
軟の者なる御簾 青中
紙の内に搖ぶる音 寸ゝ
紙の迎に参る牛遣 猪吐
八郎殿の御使 の定
相撲を止りや 可ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東西くに指南のこと書写。天口
指南屋の門供て生る事 オロ
陽を水のうちに入れ陰
陽を水のうちに入れ陰
陽を水のうちに入れ陰
実用を考へ者の事 呂
指南屋にて遊ん人あり 影
因奈八人寄合 産出
彼をうらし法使うべし 指
母の乳のをきらぬの識 の指
兄弟子供と遊ぶ 呂
[illegible] 集

秋伽羅やの実見ぬ 可
新しく産出の皆中 寄中
京を行く 指吐
京かいとるの伸と 一入
好きの老人の嗜 寄
川崎乳母と女の踊り見て 可好
あるを利き用業 影
武人日本刀 一井
世義を不見西八元の屋 指吐
[illegible]の各[illegible]ふ[illegible]の[illegible] 知
其人のるを紫さ[illegible]ふと変[illegible] 天口

寛政二戌年初冬

大坂書林　心斎橋筋南久宝寺町　塩屋平助　京師書肆　三条通

板元

大坂心斎橋筋南久宝寺町　塩屋平助

大成折句袋　中ごろ永年中秀吟大寄　全一冊

續折句袋　新板　全二冊

折句宝　彩板　全一冊

折句代　彩板　全二冊

同おゝ草　全二冊　未刻

折句駒むらえん　天明四年新撰秀吟大寄　全一冊

折句秀詠評林　廿五評高判當時点者の取方をしるす

場附集　一冊

場付いのゝ礎　一冊

同むくの葉　一冊

同後篇　一冊

新選場附鼻あ[illegible]　天明三年刊板　一冊

笠附考　大明四年新撰　天保天宝　全二冊

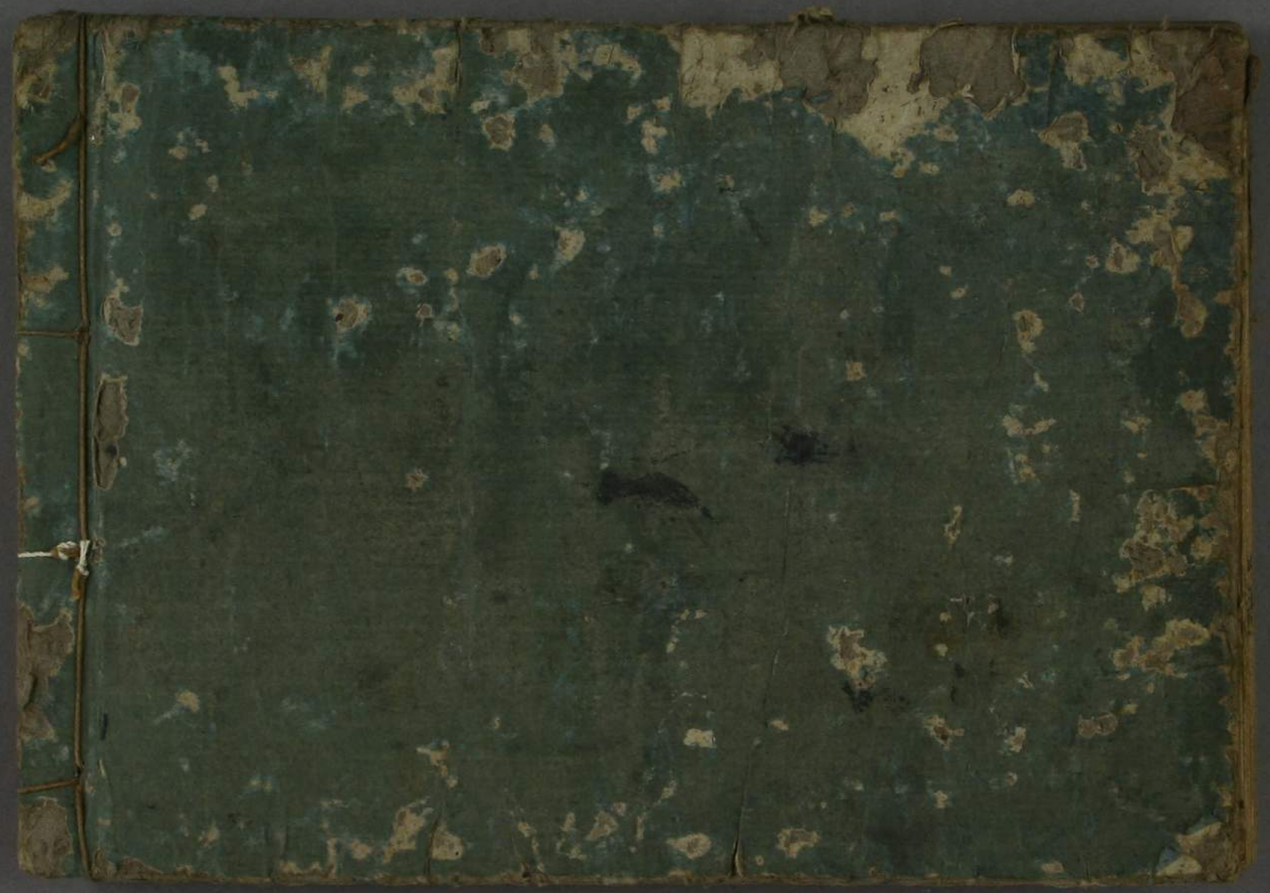
魁貫発句集　附録文之賦　全部二冊

弦曲粹賞　初篇二篇一冊完　当世のうがゝ仕方

増補糸乃舞記　琴三味線音曲大寄　彩音入天明大新板

大成折句庫　寛政二年新板　秀吹大寄　全一冊

笠附考木賊　青とくさ後篇　寛政二年新板大寄

茶道早合点　全部二冊出来

はや点ハ茶湯をもてなさるゝ人
この本を見て点ハ茶湯
用る乃名をの名又ハ茶
乃こゝろくをぐく茶乃一式くハしく記せし
もてなしハ茶湯のわゝ
出てもてなしのかたこゝろけびのはこゝろ